

新潟医療福祉大学 同窓会誌  
Niigata University of Health  
and Welfare  
An Alumni Bulletin

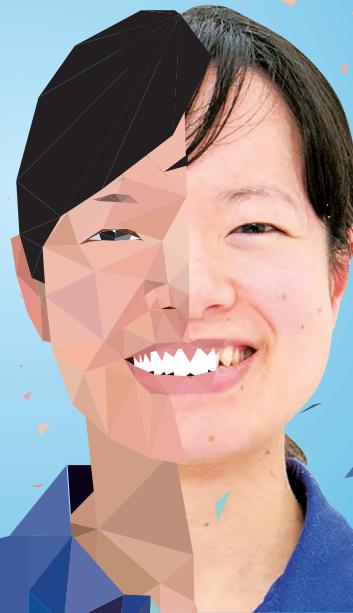
NO. 14  
2018.3

OPOH

伍桃

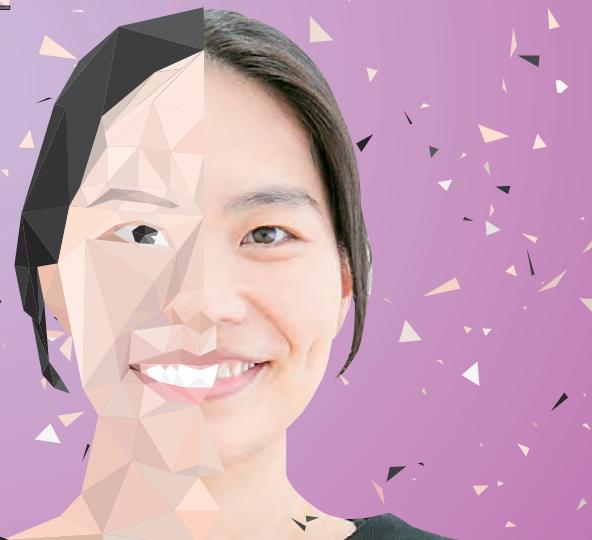
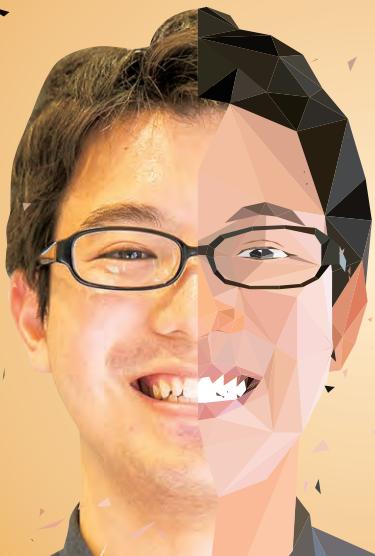
特集  
P.1~P.14

亦



— Transition —

遷





# 変遷 Occupation

転職者たちの活躍



## 現在のお仕事内容は？

「人生のラストに笑いと生きがいを！」をテーマに、介護エンターテイナーとして全国の様々な施設での講演会、セミナー やボランティア活動などをおこなっています。現在、平均すると週7～8回は講演会やセミナーを開催しています。土日はほとんど講演会のため予定が埋まっています。活動の合間を縫い、週3日程度 パートタイマーの作業療法士（以下OT）として高齢者を対象としたデイケアセンターで働いています。こうした活動に職場の理解があり、シフトを調整していただくなど、恵まれた環境にいます（笑）。また介護エンターテイナーとしての活動は自身が広告媒体となることを意味し、その結果デイケアセンターを訪れる方も多くいらっしゃいます。

## 前職のお仕事内容は？

大学卒業後、地元（富山県）で一年間 フルタイムのOTとして勤務していました。ただ、幼い頃からずっとお笑い芸人になりたいという夢を抱いていました。大学時代もこの想いは持ち続けていましたが、夢を叶えるためにはお金に加え社会経験も必要であると感じ、まずはOTとして働くことを決意しました。両親に自身の想いを話して理解を得て、一年後に貯めたお金でNSC（吉本総合芸能学院；大阪府）



に入学しました。NSC卒業後は芸人活動をしつつ、現在の職場でもあるデイケ アンターでOTとして働いていました。

## 『転職』に至った経緯は？

正直なところ、姉兄からOTという仕事があると聞いたので目指しました。NSC卒



業後、芸人活動とOTとしての勤務の並行は中途半端な状態だと感じていました。OTとしてこのまま仕事をしていくことも考えましたが、大阪まで来て、芸人になるという夢を叶えた反面、「何をしていいのか、何がしたいのか…」と悩む日々でした。しかし、30歳をさかに、笑いと作業療法で何かできるかもしれないと考えました。お笑いの舞台を高齢者に提供し、人々の間に起こる笑い、そこから生きがいを見出せればと思い、介護エンターテイナーとしての活動を始めました。高齢者はリハビリという言葉に、しんどい、辛いというイメージを持たれる方が多いです。しかし、楽しさや笑いの要素が入ることによって、マイナスなイメージが払拭されて、よくからだを動かしてくれたり、継続性を持ってくれたりします。ただ漫然と日々を過ごし人生を終えるのはもったいないですし、自身の人生もさらに楽しむしたいので、この活動を多くの人に伝えたいと思います。

## 前職での経験はどのように役立っていますか？

お笑いの経験とOTとしての専門性が活きていると思います。楽しさや笑いによって高齢者のよりよいところを引き出す、からだがいつも以上によく動くといったことを自身の活動を通じて伝えています。

## 今後のキャリアビジョンを教えてください

「介護×笑い」の先駆者として、業界には石田あり！という存在になりたいですが、OTとしても現場に立ち続けよう



考えています。現場での経験は人に伝わることばの重みをひしひしと感じられること、またこれが介護エンターテイナーとして人に伝えるときに説得力を持つものとなり、感動を生み出すものになると思います。

## 同窓生へメッセージ

やり残していることや好きなことがあるならば、取り組んだ方がいいと思います。OTとしての勤務と並行して芸人や介護エンターテイナーとして活動していたことは、保守的に映るかもしれません。しかし、方法は自由。自由に考えていいと思います。まずはどのような形でもいいから取り組んでみる、発信してみることが大切だと思います。発信することで人に伝わり、よりよい方法が見えてきたり、自分の現状を知ることができたりします。うまくいった、そうでなかった、は二の次で「取り組んだ」という経験が必ず自分自身の武器になります。



## Information

### 日本介護エンターテイメント協会

リハビリ体操に「笑い」のアクセント、エンタメ性いっぱいのアクトビティなどを取り入れ、介護現場を『笑い』でいっぱいにするために、日本全国でボランティアやセミナーを開催中。

Facebook : <https://www.facebook.com/kaigoentertainment>

Blog : <https://ameblo.jp/taaatupon/>

# 変遷 Occupation

転職者たちの活躍



## 現在のお仕事内容は？

個人事業主のカイロプラクターとして、新潟市西区にある「ファミリーカイロプラクティックLife alive」にて活動しています。院内での施術に加え、マットを持参し訪問での施術もおこないます。産前産後のお母さんはお子さんを連れての外出が大変ですし、高齢の方だと外出自体が難しい方もいますので、こちらから訪問しカイロプラクティックを提供しています。

カイロプラクティックは一般的に“ボキボキ”という施術のイメージを持たれているかと思いますが、こうした施術の要素は10%程度です。これに加えて栄養・食事指導が20%、運動指導が20%、睡眠指導が50%で構成されることから、施術だけではなく生活習慣全体を指導します。

## 前職のお仕事内容は？

老人ホームや病院で管理栄養士として勤務していました。献立作成や発注などの給食管理業務や栄養管理計画や栄養アセスメント策定などの栄養管理業務、病院での各種委員会活動にかかる資料の作成などを担当していました。

## 『転職』に至った経緯は？

妊娠してひどいつわりが続き、仕事にも影響が出てしまったので管理栄養士を退職しました。つわりが落ち着いてから

## いざ『転職』！ 大変だったことは？

中学生の頃から夢は公務員というぐらい、「THE安定」を選んできた人生でした(笑)。その安定とは真逆といつても過言ではない個人事業主になるということや、



開業届を出すまでも相当悩みました。本当にこれでよかったのかな、と考える日々もありました。それでも、やはり自身の強い想いがあったので踏み出しました。日々の仕事に加え、運営の側面では確定申告時に会計の知識が必要とされるなど、新たに取り組むのは困難を伴うことがあります。それでも、ひとつひとつできること、理解できることを増やしていくたいです。大変なことは多々ありますが、自らの人生を自らの手で開けたことは幸せであり、楽しく充実しています!!

## 前職での経験はどのように役立っていますか？

カイロプラクティックは栄養・食事指導が20%を占めるので、管理栄養士としての経験が本当に役に立っています。

## 今後のキャリアビジョンを教えてください

現在子育てをしながら活動しているので、自分のペースを大切にカイロプラクターとしてキャリアアップを図りたいと考えています。今は師匠である先生のお店(Life alive)で経験を積ませていただいていますが、将来的には自分のお店を持

ちたいです。温かくてファミリーで通いやすいような空間を創りたいです。

## 同窓生へメッセージ

社会人になってから毎日があつという間で、目標というものをあまり意識せずにこまきました。しかし、目標は自己の人生において本当に大切なことだと感じます。わたしは一度足を止めて考える機会に恵まれました。どんな小さなことでも、どんな内容でもいいと思います。人生の目標を考えてみてください。カイロプラクティックに興味がある方も随時募集中です(笑)。



## Information

ファミリーカイロプラクティック Life alive  
新潟市西区亀貝3134 Aming亀貝店様裏手

小さなお子様からご年配の方まで年齢・症状に合わせた施術を実施。親子三世代で通える、ファミリーカイロプラクティック。(予約：吉沢まで)

HP : <http://www.fcg-life-alive.com>  
TEL : 025-201-7855(代)

# 変遷 Occupation

転職者たちの活躍



入社2年目に国家試験に合格し資格を取得しましたが、当時は装具の製作に携わる時間を確保するのは困難な状況でした。

## 『転職』に至った経緯は?

大学4年次の臨床実習(山形県の靴屋さん)では、インソールの調整を経験しました。自身が偏平足気味だったことからインソールには非常に興味があり、将来はこれに関わる仕事をしたいと考えていたので、実習でそのビジョンがより明確になった感がありました。ただ、大学4年次の国家試験に合格できなかったので、まずは義肢装具会社に就職し、働きながら合格を目指しました。2年目で合格しましたが、仕事の合間を縫いながらの勉強は本当に大変でした。また営業職は会社にいる時間が少ないとから装具の製作に時間を割くことが難しく、製作したいという自身の想いとは裏腹に、当時の会社での立場や職場環境ではなかなかそれを実現できない現実に悩む日々が続きました。半年ほど悩む日々の中で、やはりもともと抱いていたインソール製作への想いが強くなり、色々と調べたところ、現在の会社を見つけました。ホームページで新潟医療福祉大学とともにありますことを知り、アポイントメントなしの突撃でお店を訪問しました(笑)。店長は新潟医療福祉大学の臨床実習指導者であったことから色々とお話を訊き、このお店にお世話になることを決断しました。

## 前職のお仕事内容は?

義肢装具会社にて3年半のあいだ、病院を回る営業職として勤務していました。病院から受注があればこちらから出向いて探型し、これをもとに製作した装具を病院で患者様へ納め、修正がある場合は現場で修正、現場での修正が困難である場合は、患者様同意の元、会社へ持ち帰り対応する、というのがおもな担当業務です。実は、大学4年次の国家試験に合格せず、入社当初は義肢装具士の資格を持っていませんでした。



いざ『転職』!  
大変だったことは?

業界と現在の仕事の考え方は真逆な部分もあるので、新しい考え方を取り入れることは大変でした。しかしその考え方を取り入れ、自分が正しくからだの使い方を覚えると、どんどん楽しくなりました。実は転職後4ヶ月で10kg太りましたが(笑)、適切な歩行を意識し、正しいからだの使い方を覚えた結果、その後の4ヶ月で6kg痩せました。こうした実際の経験をお客様にお伝えすることができますし、自分が正しい歩き方や姿勢を理解することで、靴の調整など実際の職務に活かせており、非常に充実した毎日を送っています。

前職での経験はどのように役立っていますか?

現在の仕事では、入社当初から靴の修理を任せています。大学で学んだこと、前職で見てきたもの、今までの勉強や経験すべてが今の仕事に活かされています。

今後のキャリアビジョンを教えてください

現時点で具体的なことは思い浮かばないのですが…ただ、地元(山形県)への



思い入れは強いので、将来的には地元でインソールや正しい歩き方、姿勢についての知識・情報を発信していきたいと思っています。そのためにも今は、インソールの作り方や削り方、からだのことなど、もっと勉強しなければならないと感じています。

## 同窓生へメッセージ

仕事を続けている中で色々と悩むことは多いと思います。それにより精神的に落ち込み、からだも壊してしまったら、元も子もないと思います。わたし自分がからだを壊す一歩手前までいきました。そうなってしまう前に、一步踏み出すことについても考えていいのかなと思います。踏み出すことにためらいや不安はつきものですが、悩み続けてからだを壊すよりは、納得のいく人生を送ることができるのでは、と思います。

## Information

FLaT's 102 COMFORT (フラツ102コンフォート)  
宮城県仙台市太白区長町南4-24-20

「つまずきやすい」「足にタコができるやすい」「膝が痛い」「外反母趾である」など、日常的に感じる足の悩み。思い当たるという人も多いはず。さまざまな足のトラブルを持つ人のための靴店です。

HP : <http://www.flats102.co.jp/index.php>  
TEL : 022-247-7101





## 現在のお仕事内容は?

フリーランスのヨガインストラクターとして働いています。独立してからはまだ2年ほどです。新潟駅南口に「YOGA SPACE8(エイト)」というスタジオを設け、主な活動場所としています。スタジオレッスン以外にも、各所に出向いての出張講座やヨガイベントの開催などもおこなっています。スタジオの代表者をつとめていますが、他のヨガインストラクターのみなさんと一緒に運営にあたっています。多くの方からご協力をいただき、仕事をしています。何とかご飯を食べていますね(笑)。

## 前職のお仕事内容は?

卒業後は公益財団法人新潟県体育協会に就職し、クラブ育成アドバイザーとして勤務しました。主な業務は、総合型地域スポーツクラブの設立支援や育成推進でした。当該業務は文部科学省の推進事業でもあったので、県内の各市町村の自治体に対し、設立の方法や助成金の使い方、運営状況の聞き取りを踏まえ、助言を行いました。



## 『転職』に至った経緯は?

就職し仕事をこなしていく中でヨガと出会い、どんどんのめり込みました。終業後はレッスンに通い、インストラクターの資格を取得しました。

自身の体調を崩すことが多々あったのですが、ヨガを始めてからは体調が良くなり、その経験や感動を多くの人に伝えたいと強く感じるようになりました。当時は一年ごとに契約を更新する雇用形態であったこと、ヨガへの想いや将来の展望について熟考する時期であると感じ、新潟県体育協会での仕事は4年間で区切りをつけました。

退職後、より深くヨガの知識を習得したいと思い、ヨガ発祥の地であるインドで半年間修行しました。帰国後は3ヶ月ほど職業訓練に通い、その後一般社団法人オールアルビレックススポーツクラブにて、こどもたちを対象とした運動教室の指導に携わりました。この指導の合間に並行してヨガレッスンを行っていましたが、子どもたちは無邪気で元気いっぱいな怪獣なので(笑)、体力的には正直非常に厳しかったです。ここでの経験を通じて学んだことはたくさんあり、またヨガへの想いは一層強くなりました。そこで、ヨガレッスンを中心とした仕事に取り組もう、と一念発起して独立し、フリーランスとして活動を始めました。

## いざ『転職』! 大変だったことは?

楽しい、の一言です!! 正直なところ、新潟県体育協会での仕事のうちにフリーランスとして活動することもできたと



思いますが、雇用契約の状況や独立のタイミングであるのかどうかを含め、踏み出すことができませんでした。しかし、インドでの修行やその後の仕事を経て、なお増す自身のヨガへの想いから独立を決意しました。

社会的には個人事業主となるので、社会保障等については以前勤めていた時とは異なりますが、自身の想いをそのまま形にできること、時間の使い方も自身の裁量で決めることができますので非常にやりがいがあります。ただ、お金をいただいてレッスンを行っている以上、レッスン内容のクオリティ、つまり継続してレッスンに来ていたための方法を常に模索し、運営しています。こうした自身の想いと経営面とのバランスをうまくとっていくのはなかなかハードですが、日々非常に充実しています。

## 前職での経験はどのように役立っていますか?

今までのお仕事の中で多くの人の繋がりができ、そのおかげで現在色々な場所でヨガレッスンを行っています。

## 今後のキャリアビジョンを教えてください

より一層ヨガを広めたい、より一層からだのことに詳しくなりたいです。運動機能解剖学や運動生理学などスポーツトレーナー的な知識も含め、どんどんヨガを取り入れて活動していきたいです。ヨガはからだの柔らかい人がするものだという印象を持たれている向きもありますが、からだのかたい人にも非常に効果的なので、普及活動にも並行して取り組んでいこうと思います。

## 同窓生へメッセージ

考えに考えた結果、不安が募ることは多々ありますが、実際に踏み出してわかることはもっと多くあります。動いてみると、色々な人との繋がりから未来が開けてきます。考えることは大切ですが、踏み出すこと、「一步前へ」が大切です。



## Information

### YOGA SPACE8

新潟市中央区花園1-1-10 オルガス新潟1F

新潟駅南口から徒歩5分のヨガスタジオ。多様なヨガレッスンを展開中。初心者の方から経験者まで自身の目的やレベルにあったヨガをおこなえる。詳しくはHPをご覧ください。

HP : <http://yogaforall.wixsite.com/yogaspace8>  
Blog : <https://ameblo.jp/yogaspace8/>



【特集】変遷—Transition—

# Feelings

～プロ一年目を終えて～

一年前は母校に在籍していた笠原祥太郎選手。  
プロ野球選手として一年目を終えた心境と変化について訊いた。

## プロ野球 中日ドラゴンズ 投手 笠原 祥太郎

(健康スポーツ学科2017年卒)

Dragons

### 「プロ野球選手」としての一年間を終えて

『開幕一軍』という目標を立てて入団しましたが、最初は二軍からのスタートとなり、どうなるかなと思いました。一軍に昇格して以降、中継ぎや先発での起用があり、ローテーションにも入り、勝ち星をあげられたので、自分の中では上出来だったと感じています。入団当初は一軍の試合に出ることができればなあ…くらいの気持ちで、勝ち星や先発などは考えていなかったです。

入団当初は緊張と不安で毎日オドオドしていました。人見知りがあるので、慣れるまで精一杯でしたね…。大学では硬式野球部の一期生で、先輩がいない環境だったので、先輩への気遣いや配慮など、一般常識の範囲内での礼節はわきまえていましたが、周りの方々から改めて教えてもらいました。

### 6月30日 プロ初登板、9月1日 プロ初先発

春先の二軍での試合後、監督から「一軍でバッティングピッチャーをやってこい」と言われました。それで結果がよければ一軍昇格との話でした。その

下なのに僕のことをなめきっていますから(笑)。

プロ野球選手として、多くのファンからの声援を受けて投げられたことは本当に力になりました。大学時代には経験できない環境でしたね。



©中日ドラゴンズ

アマチュアからプロとなり変化はあったか  
学生時代もずっと野球漬けの生活だったので、自分で特段変化を感じていません。ただ、野球をする時間がより長く、環境がよりよくなっている感じです。元々、実家暮らしで食べたいものを食べていたので、今の寮生活での食事も同じように食べています。これといって食事管理は受けていないので、野菜は食べるよう意識しています。外食もほとんどないです。シーズン中の体重増減はありましたか、平均して85kgぐらいでした。ただ、周りからは身体が大きくなったと言われます。たしかに二軍にいた頃からしっかりとウェイトトレーニングをするようになったので、体形の実測値でも大きくなっています。

### 母校(大学)の近況について

Twitterで新潟医療福祉大学硬式野球部をフォローしているので、逐一状況は知っています。何人かプロ注目の選手がいるようなので非常に期待しています。新入生にも頑張ってもらいたいですね。



### これからの抱負

まずはしっかりと先発ローテーションを守るように頑張りたいです。近くに岩瀬選手という大投手がいるので、色々訊いて勉強したいと思っています。記録にはこだわっていないです。まずは一試合一試合投げ切り、結果最多勝を取って、将来的には日本球界を代表するピッチャーになりたいです。多くの高い壁にぶつかるとは思いますが、いかにそれを乗り越えていけるかが重要だと感じています。これからも応援よろしくお願いします!



新潟医療福祉大学  
教育担当副学長  
江原 義弘

新潟医療福祉大学同窓会  
会長  
齊藤 公二

## 【特集】変遷—Transition—

# Alumni association

### ～大学×同窓会～

2018年4月、母校新潟医療福祉大学は学部改組、定員増、新学科設置と大きな変化をとげる。母校とともに成長し続ける同窓会について、(大学)江原義弘教育担当副学長と(同窓会)齊藤公二会長に熱く語っていただいた。

#### 大学の変化とは—

齊藤会長(以下、齊藤)：母校は2018年4月の学部改組により、6学部13学科へ大きく変わりますが、根幹にある「優れたQOLサポーターの育成」という建学の精神は変わらないと思います。しかし、大学全体として開学時と現在とでは、社会的なニーズも含め変化していると感じます。江原先生はどうにか大学が変化していると感じられますか？

江原副学長(以下、江原)：いわゆるリハビリテーション系統の職種だけではなく、社会的な背景・要請により多岐にわたる職種が生まれています。

本学では開学時の5学科から2018年4月には実に13学科となり、より医学系統に近い学科が開設されています。そして、大学の根幹となる建学の精神『優れたQOLサポーターの育成』を実現するものとして学部・学科の枠組みをこえて取り組む「連携教育」を全面的に掲げていますが、近年、医療の現場では多職種間における連携がより強く求められていると感じます。この、連携教育の中核を担う「連携総合ゼミ」では、本学の学生だけではなく、他大学や海外の大学(協定校)からも学生が参加しています。大学内、国内のみでして実現できている訳ではありません。担当教員との繋がりによって直接同窓生へ依頼、機会を設けているのが現状です。こうした状況を体系的に制度化することは必要であると思います。

齊藤：同窓生が現場で学び実践していることはそれ自体異なります。同職種であっても環境はもとより、関わる人、そこでの培われる視点、経験もすべて別のものです。その経験を学生に伝えられることが大切だと考えています。だからこそ少數の同窓生だけでなく、複数の同窓生が教育に参画し、在学生の学びの場を提供する必要があるの

生自身で考え、課題に取り組む学びの場となっています。しかしそれは、一部の同窓生が一部の在学生を支援しているにすぎず、より多くの同窓生が大学での教育に参画し、より多くの在学生を支援することが理想です。そういった仕組みを大学と連携して構築したいと考えています。

江原：同窓生が大学の教育に参画する、素晴らしいアイディアだと思います。ぜひ取り組みたいですね。現在、同窓生が講師として授業に来てくれる機会はあるものの、必ずしも大学全体の仕組みとして実現できている訳ではありません。担当教員との繋がりによって直接同窓生へ依頼、機会を設けているのが現状です。こうした状況を体系的に制度化することは必要であると思います。

齊藤：同窓生が現場で学び実践していることはそれ自体異なります。同職種であっても環境はもとより、関わる人、そこでの培われる視点、経験もすべて別のものです。その経験を学生に伝えられることが大切だと考えています。だからこそ少數の同窓生だけでなく、複数の同窓生が教育に参画し、在学生の学びの場を提供する必要があるの

が大切です。ですから、多くの同窓生が教育に参画することで在学生にそう認識してもらえることは大きなメリットであると感じます。逆に同窓生のみなさんは、大学から講師依頼がきたら困りますか？

齊藤：

いえ、むしろ同窓生は嬉しいと思います。後輩たちに自身の「いま」や経験を伝えられることは、非常に光栄なことだと思います。

江原：

なるほど。それでは私たち(大学)は遠慮なく声をかけた方がいいですね(笑)。

齊藤：もちろん、学問分野の基礎的な知識は先生方から在学生にお伝えいただくことが重要です。ただ、実習前などに同窓生から現場の話を訊くことも必要ではないかと感じています。

江原：

色々な考え方がありますが、卒業の時点でどのくらいのことを得ているかというのは大切です。しかしそれ以上に、卒業してからどのくらいの勢いで実社会におけるさまざまなものを吸収するか、つまり「伸びしろ」が非常に重要であると感じます。むしろその力をつけるために大学4年間があるのではないかと思います。さまざまなものを吸収し成長している同窓生の姿を在学生に見せることで、非常にいい刺激になるのでは、と感じます。

江原：

#### 在学生支援を充実したい—



齊藤：同窓会も毎年、連携総合ゼミには参加させていただいている。現場を熟知している同窓生が在学生の質問に答えることにより、在学

ではないかと感じています。

江原：それはとてもよいことですね。実は在学生から、「先生によって言うことがちがう」という声をきくことがあります。根本的に間違っていることを教えていたら問題ですが、何かを伝える際はさまざまな見解があり、私自身はそれぞれの人がちがうことを言うのは、ある意味正しいことであると考えています。我々教員が伝えてなかなか学生には響かなかったとしても、同窓生(先輩)が実際にその職種に就き、現状を踏まえた経験を話すことは非常に説得力があります。社会生活を送るうえで、さまざまな視点・考え方があると認識すること

が大切です。ですから、多くの同窓生が教育に参画することで在学生にそう認識してもらえることは大きなメリットであると感じます。逆に同窓生のみなさんは、大学から講師依頼がきたら困りますか？

齊藤：

いえ、むしろ同窓生は嬉しいと思います。後輩たちに自身の「いま」や経験を伝えられることは、非常に光栄なことだと思います。

江原：

なるほど。それでは私たち(大学)は遠慮なく声をかけた方がいいですね(笑)。

齊藤：同窓生が現場で学び実践していることはそれ自体異なります。同職種であっても環境はもとより、関わる人、そこでの培われる視点、経験もすべて別のものです。その経験を学生に伝えられることが大切だと考えています。だからこそ少數の同窓生だけでなく、複数の同窓生が教育に参画し、在学生の学びの場を提供する必要があるの

#### 同窓生を身近な目標に—

が大切です。ですから、多くの同窓生が教育に参画することで在学生にそう認識してもらえることは大きなメリットであると感じます。逆に同窓生のみなさんは、大学から講師依頼がきたら困りますか？

齊藤：

いえ、むしろ同窓生は嬉しいと思います。後輩たちに自身の「いま」や経験を伝えられることは、非常に光栄なことだと思います。

齊藤：同窓会としてはいわゆる「同窓生人材バンク」を構築し、ここから大学の教育への参画、具体的には同窓生を講師として授業などへ派遣するような仕組みを作りたいと考えています。そのため、大学には各学科に同窓会担当の先生を配置していただき、ここを窓口として同窓会本体(人材バンク)に授業講師の派遣依頼をいただくことで、大学と同窓会との連携がより強固なものになるのでは、と感じています。また同窓会の組織基盤をより強固なものとするために、将来的には法人化も視野に入れる必要があると考えています。

江原：

夢のある話ですね。大学と同窓会の連携を具体的に考えて進めていきましょう。この対談の機会があつてよかったです！

齊藤：

よろしくお願ひいたします！



第5回

# 連携研修会

糖尿病の理解と支援の方法～チームアプローチの現状と課題～



2017年11月11日(土)、糖尿病をテーマに「健康栄養学科」と「臨床技術学科」の連携を考究する研修会を開催しました。

今回は、専門職として活躍している同窓生からの講演や現場報告がなされ、現状や課題がダイレクトに伝わってくる研修会となりました。参加された同窓生は学びを深めるとともに、「多職種連携」の意義や必要性をあらためて感じている様子でした。



## 「連携研修会」とは…

大学での連携教育を踏襲し、専門職としての資質向上(スキルアップ)の実現を目的とした同窓会の中核を担う事業です。卒後教育・生涯教育を充実させるとともに、専門職として活躍している同窓生同士の新たな連携方法を模索し、相互の親睦を深める機会を提供しています。

**【開催実績】**  
 2013 理学療法学科×健康栄養学科  
 2014 作業療法学科×言語聴覚学科  
 2015 義肢装具自立支援学科×社会福祉学科  
 2016 健康スポーツ学科×多学科

## 第1部 特別公演

第1講演

### 『一緒に学ぼう・考えよう糖尿病治療 ～チーム医療と体験型栄養教育からの経験～』



同窓生である高橋洋平さん(JA新潟厚生連上越総合病院勤務 管理栄養士／健康栄養学科2009年卒)よりご自身の現場経験を踏まえたユーモア溢れるご講演をいただきました。患者様との外食ツアーやコンビニ探検など、実生活に近い環境の中での「体験型栄養教育」が患者様自身的意識改革や食習慣の改善に大きく寄与するとの説明がなされました。

#### 講演を終えて 高橋さんコメント

多職種や栄養士でも他分野で活躍される同窓生との交流は、普段とは違った視点で自分の業務を見返すことができました。自身も卒後9年目となり、職場でも職種問わず、母校の卒業生と一緒に仕事をすることが多くなっています。研修会第二部の多職種連携実例報告では、まさに母校での学びが体現されているように感じました。本研修会を通して、自身の経験の振り返りと今後の目標を見据えるための貴重な機会となりました。



### 『糖尿病と腎障害 ～特に糖尿病性腎症について～』

第2講演は追手嶺先生(新潟医療福祉大学臨床技術学科 学科長／教授)よりご講演いただきました。糖尿病の起源や腎臓の機能解剖をはじめ、糖尿病性腎症の具体的な病態や治療方法など、知識を深めることができる有意義な時間でした。



## 第2部 多職種連携実例報告

### 血液透析患者に対するチームアプローチ

研修会第2部は、新潟県村上市の村上記念病院様に勤務されている同窓生3名(管理栄養士／理学療法士／臨床検査技師)より、実際に院内にて行われている「多職種連携」の実例をご報告いただきました。それぞれの職種での立ち位置や役割、現場で求められる対応などについてお話をいただきました。参加した同窓生は、「多職種連携」の重要性をあらためて認識し、自身の現場での多職種連携の方法を考える機会となりました。



医療法人新光会 村上記念病院  
管理栄養士 北林 純さん  
健康栄養学科 2005年卒

私たちも各々では連携して臨床業務にあたっておりましたが、一堂に会して何かを成すという経験は初めてでしたので、今回の研修会はとても感慨深いものがありました。研修会では先輩や後輩の垣根を越えて、お互いの疑問や考え方を討論するという連携研修会の特長的な場面もあり、有意義な時間を過ごすことができました。連携研修会はただの同窓会ではなく、ただの研修会でもありません。主催学科を問わず、多くの同窓生ならびに在学生が参加されることを期待しております。

医療法人新光会 村上記念病院  
理学療法士 小野 瞬さん  
理学療法学科 2013年卒

今回報告した患者様を担当するにあたり、チームアプローチの重要性を再認識し、患者様の生活を幅広い視点で見ることができました。今後も、新潟医療福祉大学で培った連携教育の経験と理学療法士としての専門性を活かせるよう切磋琢磨していきたいと思います。また、今回講師をしていただきました高橋様、追手先生をはじめ、研修会の企画、進行をしていただきました同窓会役員の皆様に感謝申し上げます。

医療法人新光会 村上記念病院  
臨床検査技師 小林真依さん  
臨床技術学科 2017年卒

私は昨年の春、新卒で村上記念病院に就職し、仕事や村上での生活に慣れていた頃、連携研修会のお話をいただきました。一人の患者様に対して臨床検査技師として何ができるのか、なかなか答えを見つけられずにいたとき、先輩方に多くのアドバイスをいただきました。自身このような機会は初めてでしたが、先輩方と共にこのような研修会に参加できたことはとても心強く、よい経験となりました。患者様や院内の各種専門スタッフからも頼られる医療従事者になれるよう、これからも日々の業務に励みたいと思います。



#### 総評

新潟医療福祉大学同窓会  
首都圏支部副支部長  
岡村聰之さん  
(学校法人埼玉医科大学 埼玉医科大学病院  
勤務／健康栄養学科 2005年卒)

はじめに、今回の連携研修会にてご講演・ご報告いただいた皆様におかれましては、本会にご支援ご協力を賜り、あらためて厚く御礼申し上げます。研修会を通じて、チーム医療(多職種連携)でどのように各専門職が上手く関わり、対象者のQOL向上に繋げられるかのヒントをいただくことができました。特に、実際の現場において「多職種連携」が行なわれている事例は、同窓会としても是非、在学生にも聴いていただける機会を設けて、よりよい在学生支援を実施できればと強く感じた次第です。5年前に連携研修会事業を開始し、会を重ねるごとに、内容が充実してきていると感じます。同窓生皆様の卒後教育・生涯教育としても、有意義な研修会となるよう取り組む所存ですので、今後ともご支援ご協力よろしくお願い申し上げます。

# 『連携総合ゼミ』 に同窓生8名が参加



2017年9月6日(水)、大学での連携教育集大成となる「連携総合ゼミ」に、専門職として活躍している同窓生8名が授業サポーターとして参加しました。具体的な症例をもとに学科混成グループで支援策を検討している在学生たちに、専門職としてのアドバイスや経験を伝えました。在学生からは「とても参考になるアドバイスをいただき、グループでの支援計画がより明確なものになりました」などの声が聞こえてきました。

## \*連携総合ゼミ参加同窓生

健康栄養学科2005年卒 岡村聰之さん(学校法人埼玉医科大学 埼玉医科大学病院勤務)  
理学療法学科2007年卒 田村祐美さん(新潟医療生活協同組合 通所リハビリテーションなじゅも勤務)  
社会福祉学科2007年卒 江里口恵子さん(医療法人尚和会 宝塚リハビリテーション病院勤務)  
社会福祉学科2007年卒 金子達也さん(社会福祉法人 新潟市中央福祉会勤務)  
作業療法学科2009年卒 高野友美さん(社会福祉法人豊潤舎 新潟県障害者リハビリテーションセンター勤務)  
社会福祉学科2010年卒 熊谷麻美さん(社会福祉法人新潟市社会事業協会 信楽園病院勤務)  
言語聴覚学科2011年卒 小松慎太郎さん(新潟医療福祉大学大学院 言語聴覚学分野所属)  
社会福祉学科2015年卒 瀬藤陽子さん(医療財団法人明理会 イムス富士見総合病院勤務)

## あそびの ひろば を開催!

2017年10月8日(日)、同窓会×伍桃祭コラボレーションイベント『あそびのひろば』を開催しました! 今回は、スポーツアスレチック、YOGA、キッズ・ファミリー写真撮影コーナーなどに加え、たこ焼きやアイスクリームも提供しました。晴天にも恵まれ、多くの同窓生やパパ＆ママ、ちびっこたちにご来場いただき、会場は大いに盛り上がっていました。当日は同時に開催していた「伍桃祭」にも足を運んでいただき、久しぶりに大学を訪れた同窓生たちは、母校の発展に驚きの声が上がっていました。多くの方のご来場、本当にありがとうございました。



国家試験・資格試験“合格祈願”“大願成就”  
クリアファイル寄贈

大切に使います!

国家試験・資格試験を受験する在学生の皆さんの合格と大願成就を祈願し、同窓会より合格祈願・大願成就グッズを贈呈しました! 今回は受験票や書類を収納出来る『クリアファイル』を贈呈!! クリアファイルには前年度に卒業した同窓生から、後輩たちに向けたメッセージが添えられており、夢や目標が叶うようにとの願いが込められています。クリアファイルとともに先輩たちの「想い」を受けとった在学生からは、「大切に使います!」「辛くなったらファイルを見返します!」という嬉しい声が聞こえました。

## 同窓会横断幕完成! 強化指定クラブを応援!!

同窓会ではこの度、在学生支援を目的に同窓会横断幕を作成しました! できたホヤホヤの横断幕を手に、10月28日(土)～29日(日)に新潟市内で開催された男女バスケットボール部の「第51回北信越大学バスケットボール選手権大会(インカレ予選)」と、同29日(日)に宮城県仙台市にて開催された陸上競技部の「第35回全日本大学女子駅伝」を応援しました。またちがった形で本会ならびに同窓生をPRできたりや在学生を支援できることはとても充実した時間となりました。今後も引き続き、横断幕を各種大会やイベントで掲げてまいります!!

19 COTON 同窓会活動

同窓会活動 COTON 20

# Tool of Professional

激務の日々を過ごす医療従事者にとって欠かせない、「相棒」とも言える仕事道具。  
そんなプロフェッショナルが日々大切にしているツールをご紹介します。

社会福祉法人 聖隸福祉事業団 総合病院 聖隸浜松病院 臨床工学室(手術センター) 臨床工学技士

鈴木 克英さん (臨床技術学科2017年卒)

- テスト肺(人間の肺を模擬したもの)
- 呼吸回路
- 呼吸バック(用手換気用)

手術室の麻醉器点検で使用します。全身麻酔の手術では麻醉器(人工呼吸器)は必ず使用され、患者様の状態を維持するために必要な生命維持管理装置でもあります。日々安全に使用するためにも、毎朝必ず各担当者が点検をおこなっています。



## 勤務先の紹介

当院は病床数750床、中央手術室15部屋、分娩専用手術室2部屋を有する地域医療支援病院です。臨床工学技士は72名在籍しており、手術室には20~28名程度配置されています。手術室の業務は「基本業務」と「特殊業務」に分類されており、基本業務は始業点検、各科手術の外回り業務(治療用機器・内視鏡・顕微鏡を使用する手術のセッティングと操作介助、麻酔導入介助)、機器の保守点検管理業務等があります。特殊業務は分野毎にチームを組み対応しており、多種多様な業務に対応しています。日々、臨床の最前線で医師と連携しながら患者様の治療をサポートしています。

## 同窓生へのメッセージ

臨床工学技士は最先端高度医療機器の取り扱いに関わるため、幅広い分野へと活躍の場が広がっています。医療機器は日々進歩しますが、私たちが絶対に忘れてはならないことは「患者様にあった医療を提供すること」です。患者様の状態変化を見逃さず、柔軟かつ迅速に対応をおこなう上で、ダブルライセンスの取得はとても活かせています。チーム医療の一員として、提案や助言がおこなえるように、お互い切磋琢磨していきましょう。

## 理学療法学科3期生 卒業10周年同窓会

2017年11月3日(祝・金)アートホテル新潟にて、理学療法学科3期生の卒業10周年を記念した同窓会が開催されました。社会人としても10年経過し、大変忙しい中、同窓生20名とお子様も集まり、笑顔溢れる同窓会となりました。



開催幹事より 田村祐美さん(旧姓:田澤)

卒業式後の謝恩会もこの会場(当時はワシントンホテル)で行われたので、思い出の場所で10周年を迎えることができ、とても感慨深いものがありました。当時お世話になつた古西先生にもご出席を賜り、この場をお借りしてあらためて御礼申し上げます。卒業後10年が経過し、それぞれが家庭を築いたり、新たなチャレンジに取り組んでいたりと、様々な変化があったようです。仲間たちの10年前と変わらない笑顔を見ることができ、大変うれしく思いました。

## 学科同窓会を開催しませんか?

同窓会では、学科同窓会の開催を積極的に応援しています！

卒業後〇周年という節目だけではなく、「〇〇学科〇期生同窓会」といった同窓会など、母校を卒業した仲間たちとの交流会を開催しませんか?!

開催のご相談は、同窓会支援室(dosokai@nuhw.ac.jp)までご連絡ください！





## GOTOHPEDIA

*Kininaru Kotoba wo Kaisetsu Shimasu!*

福祉医療分野に従事する方々を取り巻く環境は、日々急速に変化しています。しかし、その変化によって、聞いたことはあるけれどよくわからない言葉も多く出てきています。そんな「気になる言葉」の意味を、このページではわかりやすく解説します。



ページ  
ノート

## “サステナビリティ【Sustainability】”

『サステナビリティ (Sustainability)』とは「持続可能性」と呼ばれ、1987年のブルントラトン委員会(通称)が提言した「持続可能な発展」がルーツとなっています。地球環境資源は有限であるということを認識した上で、「将来世代のニーズを損なうことなく、現代世代のニーズを満たす発展」という非常に深い概念を示しています。[これは、環](#)

境問題やエコロジーという課題だけではなく、文明・文化・経済・科学、さらには貧困問題や人権問題、南北格差などのあらゆる課題を含めた概念であるということを認識しておく必要があります。



## オリンピックでも注目

『Sustainability』はオリンピック・パラリンピックにおいても重要なキーワードとなっています。また、約1か月間で100万食を超える食事を準備する必要があります(東京2020大会における飲食提供にかかる基本戦略について)。この「持続可能性に配慮した調達コード」には、「国産品」ということが求められました。2016年リオデジャネイロ大会では「持続可能性」が大会キーワードとなり、2017年4月には東京大会組織委員会から「持続可能性に配慮した調達コード」が発表されました。例えば、2020年東京大会の選手村規

模で必要となる「主食」の試算は135トンです。また、約1か月間で100万食を超える食事を準備する必要があります(東京2020大会における飲食提供にかかる基本戦略について)。この「持続可能性に配慮した調達コード」には、「国産品」ということが求められました。そのため、『これらの食料を、食料自給率39%の日本が果たしてまかうことができるのか?』という話題が度々報じられています。『Sustainability』の推進と日本の食料自給率の現状から鑑み、日本がどのように食の面で



## 今後の「新潟」でも重要なキーワードに!?

2014年3月に新潟市は「国家戦略特区(農業特区)」の指定を受け、農業に関する「生産・加工・販売」を一体的にとらえ、継ぎ目なく繋げていくことを目指して

います。新潟を世界に開かれた食の流通拠点としての食料輸出入基地とし、世界の「農業・食品産業」の最先端都市にする「ニューフードバー構想」を掲げて

います。今後はこの構想の中にも循環型農業や有機農業といった『Sustainable agriculture(持続可能な農業)』の考え方方が浸透することが期待されます。

【参考】持続可能性「Sustainabilityサステナビリティ」とは何か:執筆 河口真理子(経営戦略研究所)  
公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会HP:<https://tokyo2020.org/jp/>  
新潟市HP:[http://www.city.niigata.lg.jp/business/shoku\\_hana/newfood/](http://www.city.niigata.lg.jp/business/shoku_hana/newfood/)

# Nozokimi!

—ノゾキミ!—

新潟医療福祉大学の気になるトピックスをノゾキミします!

今回のトピックス

△医療技術学部 診療放射線学科 2018年4月新設

△NUHW学生寮「N-Village伍桃」2018年4月開寮

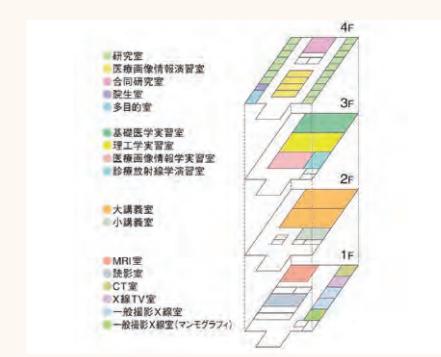
## 医療技術学部 診療放射線学科 2018年4月新設

新潟医療福祉大学に13科目となる「診療放射線学科」が新設されます。超高齢社会の進展に伴い、重大な病気の発見・検査まで幅広い業務に対応する放射線技師へのニーズはますます高まっています。新潟医療福祉大学では、

最新鋭の設備機器を備えた学習環境と臨床経験豊富な教師陣を配置し、即戦力としてチーム医療の第一線で活躍できる診療放射線技師(国家資格)を育成します。



最新の設備を備えた、診療放射線学科の実習棟。(完成イメージ)



全国の養成校でも導入例の少ない最新鋭のMRI装置を備える。(予定)

## NUHW学生寮「N-Village伍桃」2018年4月開寮

朝夕食事付・家具家電付のシェアハウス型学生寮が開寮します。個人の部屋は完全個室にてプライバシーを確保。寮生はミニキッチンや風呂場、トイレ、洗面所などの水場を共同して使用します。単純な学生寮ではなく、寮生は仲間とともに生活を送りながら、年間を通じて行われる各種教育プログラムに参加し、「優れたQOLセンター」となるための力を育成すること目的においた「教育寮」となります。



北側の第8駐車場脇に併設されるN-Village伍桃全体像(完成イメージ)



寮への出入口となる共用棟。食堂と多目的スペース、大浴場を備える。  
寮敷地内は、カラフルな居住棟と緑溢れる憩いの空間が広がる。



次代の保健・医療・福祉・スポーツ分野を担う、教育者・研究者・高度実践専門職業人を目指す。  
新潟医療福祉大学  
医療福祉学研究科

本学大学院では、社会の方も学びやすい昼夜開講制に加え、長期履修制度、各種奨学金制度など、様々な面で皆さんの「学びたい」をサポートしています。

また、国家資格を有している方が、さらに専門的で高度な技術や知識の習得を目指す、または各種職能団体等による専門職資格の習得を目指し、かつ修士の学位取得もできる「高度専門職業人プログラム」を提供しています。キャリアアップを目指している方、少しでも興味をお持ちの方はお気軽にお問い合わせください。

## ■修学をサポートする制度

- 本学卒業生は、入学金半額(10万円)免除
- 平日は18:10から授業スタート。土曜開講や集中講義もあります。
- 長期履修制度(修士課程:最長4年、博士後期課程:最長6年)
- 教育訓練給付金指定講座(一部対象外)

## ■各種奨学金制度

- 大学院無利子貸与奨学金(学費の全額または半額を無利子で貸与)
- 特別研究奨学金(卒業生対象、年間15~20万円を給付)
- 修学援助奨学金(2年時に15~20万円を給付)

## 注目 修士課程学費减免特待生制度

優秀で経済的に修学が困難な方を対象とした制度です。採用された場合、2年間合計で**最大110万円**の学費が减免されます。  
(分野や年次により減免額は異なります) 詳細は大学院HPをご覧ください <http://www.nuhw.ac.jp/grad/>

資料請求やお問い合わせは本学大学院入試事務室まで TEL : 025-257-4500 FAX : 025-257-4505 E-mail:grnyuusi@nuhw.ac.jp

## 大学院と仕事の両立

## 人生の中で充実した貴重な時間

私は現在、母校である新潟医療福祉大学の大学院健康栄養学分野「臨床栄養専門コース」に在籍しています。大学院へ進学した理由は、臨床栄養についてより深く学び、根拠ある栄養管理を実践したいと思ったからです。私が勤務する病院の管理栄養士は私一人しかいないため、チーム医療においては、全ての患者様への対応が求められます。近年、高齢化が進むとともに、様々な疾患を持つ人が入院されるため、疾患や病態、それに対する栄養管理について広く深い知識と技術を習得することの必要性を感じていました。また、臨床に携わって数年経過した頃にインプットの勉強で得られる知識に限界を感じ、自分の実践をアウトプットしたいと考え始めました。その頃から大学院への進学に興味はありましたが、仕事

との両立や金銭面等の不安があり決心できずにいました。しかし、大学の恩師から励ましがあり、昼夜開講制や奨学金制度等、「社会の人でも学びやすい環境」が整っていたこともあり、進学を決意しました。また、講師(医師、管理栄養士、看護師等)の先生方が現場でご活躍されている第一人者であること、自身の向上心を養える魅力的な研究環境であると感じています。

課題研究としては、病院併設の通所リハビリセンターの利用者を対象とした栄養教育の効果を検討したいと思っています。日々、栄養教育をおこなっていますが、より効果的な教育をおこなうためにはどうすればいいのかという疑問を解決し、仕事に活かしていきたいです。

仕事と大学院の両立を図る上で、体調管理と時間の使い方が課題ですが、周囲の方々からもご理解とご協力をいただいているお蔭で時間確保ができます。大変な面もありますが、毎日が充実していて最高に楽しいです。



**医療福祉学専攻**  
(博士後期課程)

**健康科学専攻**

- 健康栄養学分野
- 健康スポーツ学分野
- 看護学分野

**保健学専攻**

- 理学療法学分野
- 作業療法学分野
- 言語聴覚学分野
- 義肢装具自立支援学分野
- 医療技術安全管理学分野
- 視覚科学分野

**社会福祉学専攻**

- 保健医療福祉政策・計画・運営分野
- 保健医療マネジメント分野

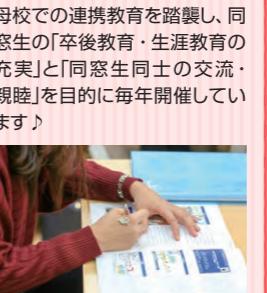
**医療情報・経営管理学専攻**

- 医療情報・経営管理学分野

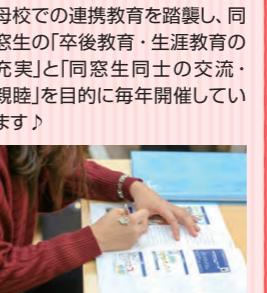
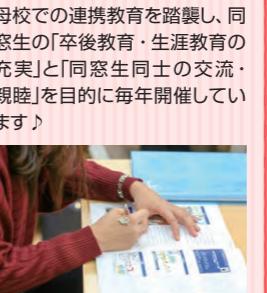
**[高度専門職業人プログラム]**

- 看護学分野 高度実践看護師(がん看護専門看護師)コース
- 理学療法学分野 臨床徒手理学療法コース
- 健康栄養学分野 臨床栄養専門コース
- 社会福祉学専攻 認定社会福祉士単位取得コース
- 理学療法学分野 急性期理学療法コース ※2018年4月新設予定

# NUHW同窓会はこんな活動をしています。



## 多学科連携研修会



## 同窓会誌

毎年春(3月)、秋(9月)に発刊しています。同窓生や母校の近況をお届けしています!!



## 在学生支援



各クラブの大会応援や連携総合ゼミでのサポートなど、様々な形で後輩たちをバックアップしています♪



実は…大学にあるこの時計も「同窓会」からのプレゼントなんですよ♪

国試合格や卒後の活躍を願い、同窓会から全4年生に想いを込めた様々なグッズを贈っています♪



## 合格祈願・大願成就グッズ

## ホームページ・Facebook

同窓生や大学の近況、同窓会イベントの案内など、様々な情報発信をしています!!



## ホームカミングデー

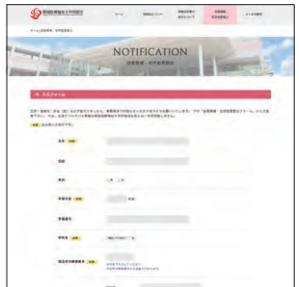
同窓生が母校に集まる目的にした会です。毎回、著名なゲストを呼んだり、同窓生の実践発表を行ったりします!!



## 住所変更などは…

フォーマットに変更事項を記載して送信ボタンをクリックするだけ!カンタンです!!  
同窓会に対するご要望やご質問は新ホームページまたは下記までどうぞ!!

新潟医療福祉大学同窓会支援室  
mail : dosokai@nuhw.ac.jp  
TEL : 025-257-4500



## 役員会

年に数回、全国各地から役員が集まり、同窓会事業について協議しています。





### 編集後記

早いもので、同窓会の設立から13年が経ち、同窓生は7,400名を超えました。母校 新潟医療福祉大学の規模はどんどん大きくなり、同窓会もともに成長してまいりました。今回の特集記事は、学生から社会人へと成長し、それぞれの道でさまざまな模索を経た“いま”からみた同窓生の変遷を取り上げました。時間の経過とともに移り変わるもの、変わらないもの…どちらも大切に、同窓会は“いま”、そして“これから”を見据え、より充実した支援のために尽力します。

お問い合わせ先

新潟医療福祉大学同窓会 新潟県新潟市北区島見町1398番地 新潟医療福祉大学事務局内 同窓会支援室 TEL 025-257-4500 Mail dosokai@nuhw.ac.jp

Publisher : 新潟医療福祉大学同窓会 Plan & Edit : 新潟医療福祉大学同窓会支援室 Design : 株式会社タカヨシ Photo : 株式会社タカヨシ・FUN COMPANY・新潟医療福祉大学同窓会